

令和6年度全国学力・学習状況調査に係る結果の概要等について

令和6年11月20日

帯広市立稲田小学校

令和6年4月18日に実施された全国学力・学習状況調査における本校児童の結果概要及び取組の成果や課題についてお知らせします。

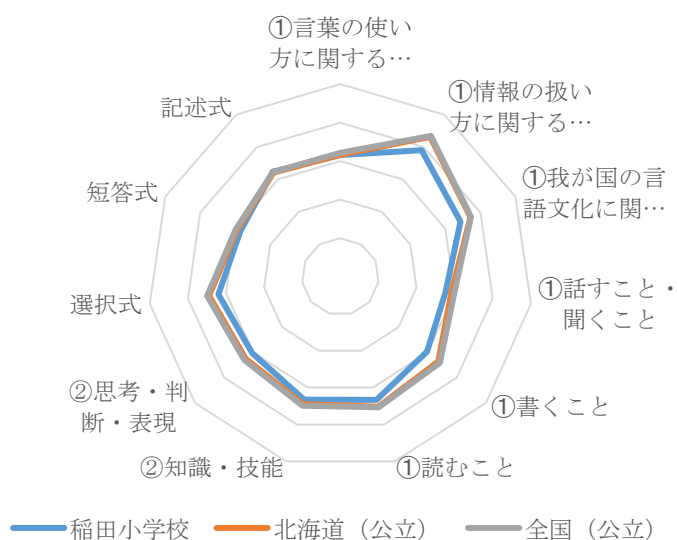
なお、全国学力・学習状況調査の目的及び対象等につきましては、次のとおりです。

- 〔目的〕
- 全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 - 学校における児童への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
 - そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

〔対象〕 小学校第6学年

〔問題〕 国語、算数、質問調査

国語



(1) 結果

▲全国平均と比べて下回った。

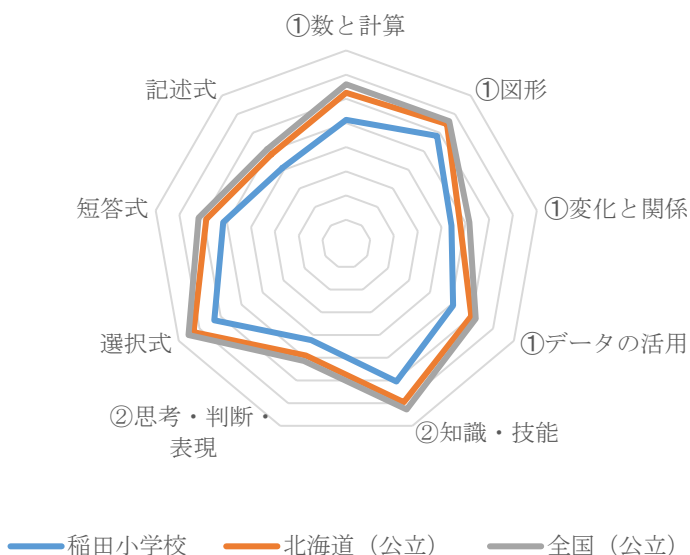
(2) 概要

- 「情報の扱いに関する事項」の問題で適切な話し方を考えることができる。
- 「読むこと」の領域で心に残った事項について理由を説明することができる。
- ▲ 「思考・判断・表現」の問題に課題がある。
- ▲ 漢字の問題で無解答が多かった。

(3) 考察（上記（1）、（2）から）

「思考・判断・表現」の問題に課題があるものの、その土台となる漢字の読み書きなど知識・技能の確実な習得が必要である。
また、文章は書けるようになってきているので目的に応じて書く力を付ける必要がある。

算数



(1) 結果

▲全国平均と比べて大きく下回った。

(2) 概要

- 図形の見取り図について理解している。
- 円グラフの特徴を理解し、読み取ることができる。
- ▲ 「記述式」の問題に課題がある。
- ▲ 示された情報をもとに、立式することに課題がある。

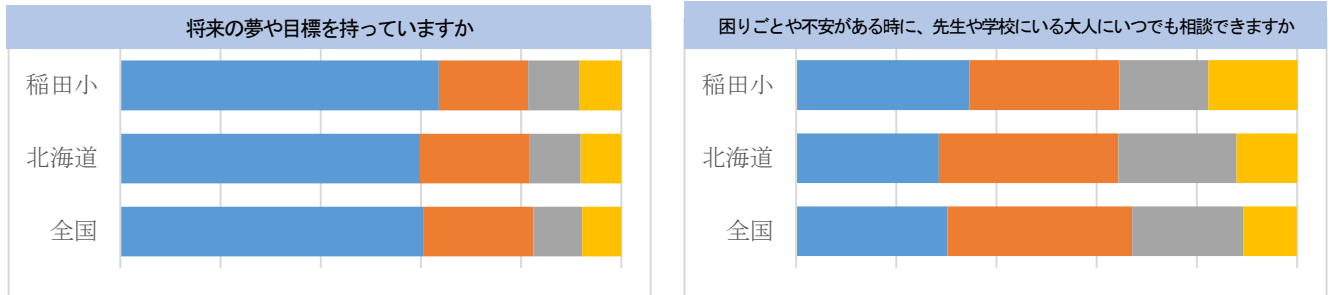
(3) 考察（上記（1）、（2）から）

「思考・判断・表現」に課題があるもののその土台となる四則計算など、知識、技能の確実な習得が必要である。
また、公式の理解と問題文の理解を指導し、立式の力を高める必要がある。

児童質問紙

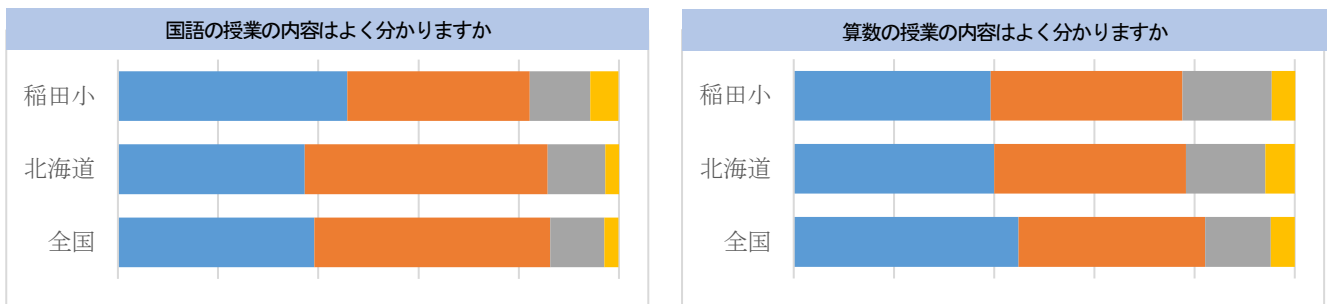
学習習慣や授業改善等に係る62の質問の中から、本校児童の特徴的な回答について、次のとおりお知らせします。なお、棒グラフにおける青は「当てはまる」、橙は「どちらかといえば、当てはまる」、灰は「どちらからといえば、当てはまらない」、黄は「当てはまらない」を示しています。

学習習慣等



将来に希望をもち目標に向かって学習している様子がある。また、困ったときに先生や大人に相談することができるという回答している児童が全国・全道よりも多いものの否定的回答の割合も多いことから、校内における相談体制の充実に努める必要がある。

授業改善



「授業の内容がよく分かる」と回答している児童の割合が、全国・全道と同程度ではあるものの半数にとどまっており、一単位時間における「分かった」「できた」という実感をもたせる授業改善が必要である。今後は教科の学習目標を授業の中で到達させ、1時間1時間で達成感を味わえるような授業改善を行っていく。

学力向上の取組について

質問紙では「国語や算数の学習は大切」と回答する児童の割合が全国と比べて高いものの、「国語や算数の授業の内容はよく分かる」と回答する児童の割合が半数程度にとどまっており、学びに向かう力は高いものの、基礎・基本となる知識・技能の取得に課題が見られる。そこで、学力向上については、「基礎・基本の知識・技能の定着」「自己肯定感の向上」を大切にしていきたい。

「基礎・基本の知識・技能の定着」については、検定部による100ます計算や漢字検定、「これっきり稲田くん」による当該学年の基本問題への徹底的な取組を実施する。

また、「自己肯定感の向上」では、「いなだ博士ちゃん」や検定部の取組、また、「これっきり稲田くん」の実施による頑張れば目標を達成できる成功体験を積み重ねることを大切にしていく。

なお、日常の授業改善としては、学力調査の問題を分析し「条件に合わせて書くこと」や「様々な形でのアウトプット」（ノート、タブレット、発言等）を授業に取り入れ、学習に向かう力とともに学力の向上に引き続き取り組む。

